

日本脳炎ワクチン

【日本脳炎について】日本脳炎ウイルスの感染でおこります。人から人への感染はありません。日本脳炎ウイルスは豚などの体内で増殖し、その豚を刺した蚊（コガタアカイエカ）が人を刺すことによって感染します。感染者の100～1000人に一人が脳炎を発症します。高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳症となり、死亡率は20～40%、精神神経学的後遺症が残る可能性も高い病気です。これまでの流行は西日本中心でしたが、ウイルスは北海道など一部を除いて日本全体に分布しています。また熱帯亜熱帯アジア地域には広く常在しており現在でも地域によって大流行がみられます。予防接種の普及と生活環境の改善により国内での患者数は減ってきましたが、幼児や高齢者では死亡や後遺症のリスクが高いといわれています。

【日本脳炎ワクチンについて】

不活化ワクチンです。

接種回数が多くなるほど高い抗体価を持つ人の割合が高くなります。

副反応として、1～2%のお子さんに発熱 接種部位の腫れなどがみられますが、数日で落ち着きます。

重篤なものは極めてまれです。

【接種方法】 3歳以上1回 0.5ml
3歳未満1回 0.25ml を皮下に接種します。

【定期接種できる期間】 第Ⅰ期 （初回2回と追加1回）生後6か月～7歳6か月になる日の前日まで。
第Ⅱ期 （1回）9歳～13歳になる日の前日まで。

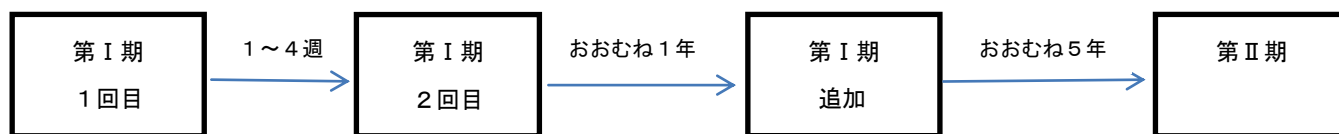
【スケジュール】

標準的には第Ⅰ期初回を3歳、第Ⅰ期追加を4歳、第Ⅱ期を9歳で実施します。

第Ⅰ期初回（2回）1～4週間あけて、2回接種

第Ⅰ期追加（1回）第Ⅰ期初回接種から6か月以上（標準的にはおおむね1年）あけて1回接種

第Ⅱ期 （1回）第Ⅰ期追加接種からおおむね5年後に1回接種



【接種費用】 無料（23区内の予防接種予診票を持参し、記載された有効期限内であれば公費負担）
ただし23区内の予診票を持参しないで接種 対象年齢を超えての接種
指定医療機関以外での接種 規定の回数を超えての接種 は有料

【持参するもの】 予防接種予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）
母子健康手帳

※特例対象者について

平成17年度から21年度にかけて実施された日本脳炎ワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより日本脳炎ワクチンの接種4回を完了できなかった方は、定期接種の年齢を過ぎても特例対象者として公費による接種が可能です。「平成7年4月2日～平成19年4月1日に生まれ、4歳以上20歳未満」で該当する方は保健所にお問い合わせください。